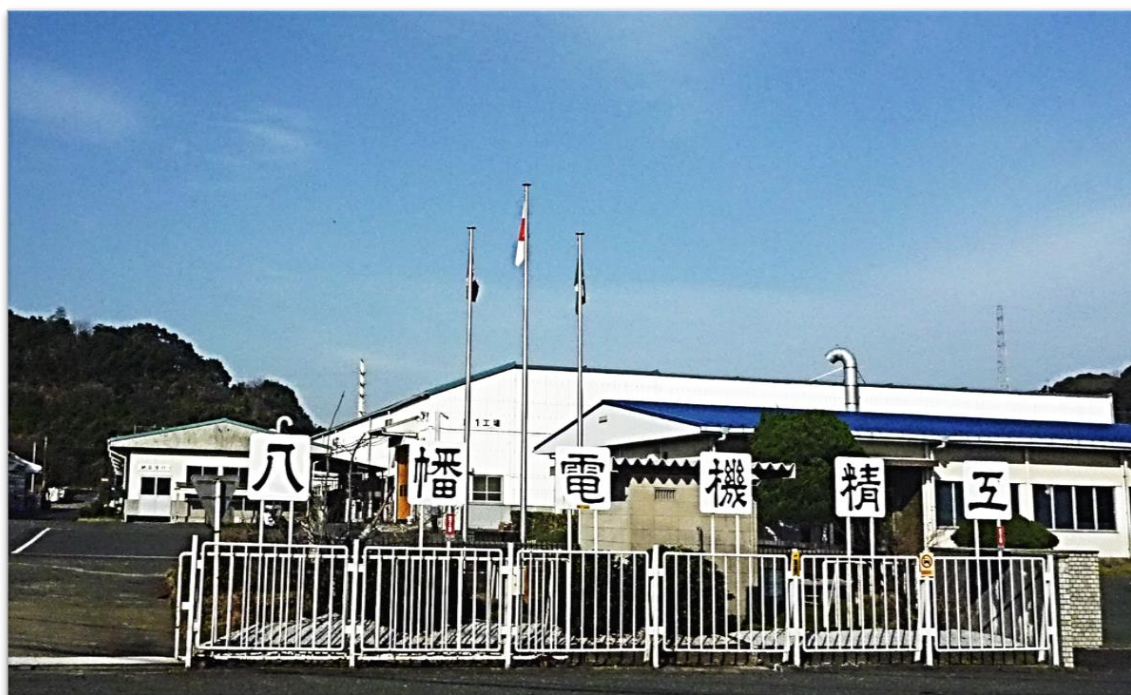


エコアクション21

2022年度 環境経営レポート

(2022年4月～2023年3月)



2023年6月5日 作成

 八幡電機精工株式会社



I. 事業の概要

1. 事業所

- (1)名称 八幡電機精工株式会社 本社及び工場
(2)所在地 〒807-0801 北九州市八幡西区大字本城2805番地
TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556
<http://www.yawata.co.jp>

2. 代表取締役社長 菊竹 浩和

3. 環境管理責任者氏名及びEA21事務局担当者の連絡先

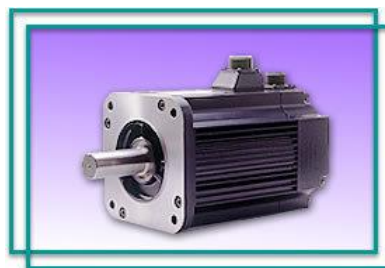
- (1)責任者 環境管理責任者 取締役総務部長 栗野 泰志
(2)担当者 EA21事務局 総務部主任 前川 恭子
(3)連絡先 TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556

4. 事業内容

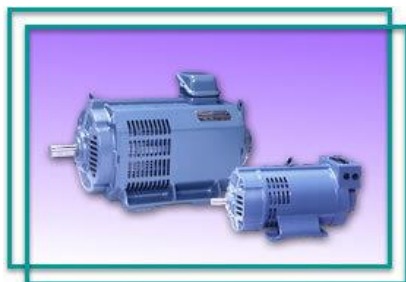
- (1)業 種 電気機械器具製造及び販売業
(2)主力製品 [回転機]
・発電機(交流発電機・高周波電動発電機・船舶用発電機)
・電動機(かご形モータ・直流モータ・巻線形モータ)
・可変速電動機(インバータモータ・VSモータ・高速スピンドルモータ)
・制御用電動機(ACサーボモータ・DCサーボモータ・半導体装置用モータ)
[自動機械・装置]
・発電装置(周波数変換装置・車載発電装置)



・周波数変換装置



・ACサーボモータ



・VSモータ



・かご形誘導電動機

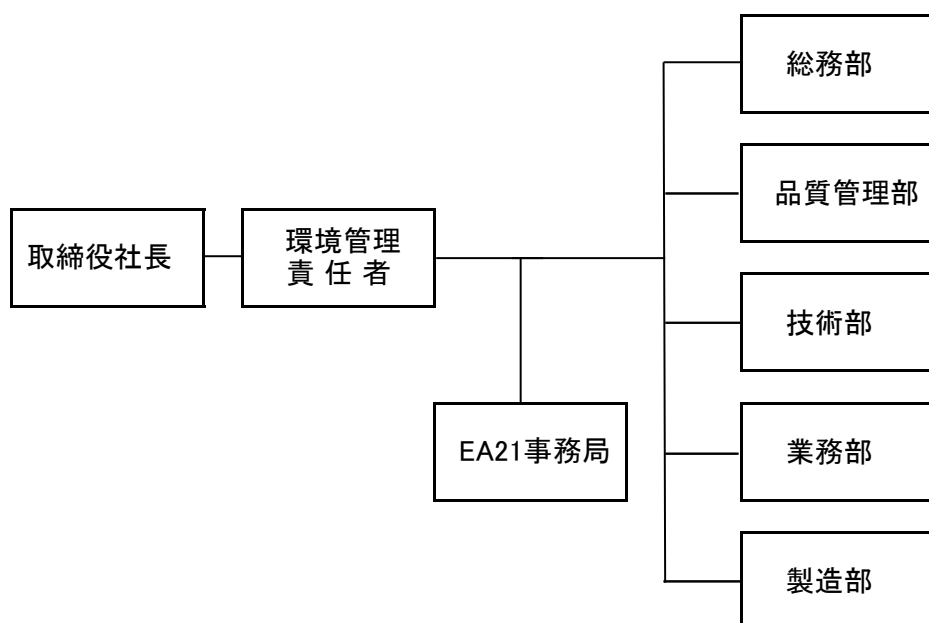


・高速スピンドルモータ

5. 事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	2,584	3,231	3,302
従業員	人	172	176	171
工場床面積	m2	8,348	8,348	8,348

6. 組織図



※ エコアクション21の取り組み範囲は全社および全事業活動を対象にします。

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

I. 基本理念

八幡電機精工株式会社は、モータや発電機およびそれらを応用した装置製品の製造・販売の事業活動の中で、地球環境に配慮した企業となるために、次の行動指針を定め行動します。

Ⅱ. 行動指針

1. すべての事業活動の中で省資源・省エネルギーに努め、環境負荷の軽減に努めます。
具体的には次の5項目を全員で取り組みます。
 - ① 電力、化石燃料類の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を抑制します。
 - ② 廃棄物の削減および分別収集により、環境負荷低減とリサイクルに努めます。
 - ③ 水使用量を削減します。
 - ④ 化学物質の使用量を削減し、環境負荷低減に努めます。
 - ⑤ 製造時の仕損削減に努めます。
2. 環境関連法規および当社が同意した各種協定を遵守します。
3. 環境方針を全職場に掲示し、すべての従業員に周知徹底します。
4. 環境教育や社内広報活動などを行い、環境保全活動の周知徹底に努めます。

2018年3月21日 改定

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊竹浩和

Ⅲ. 環境経営目標

1. 2020年度以降の目標

(1) 2020年度以降は2019年度の実績値をベースに毎年1%削減を目標とした

必須項目 (2019年度の実績値をベースとして削減する)	単位	2019年度実績	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量の削減 (電力CO2排出係数変更)	kg-CO2/年	1,183,574	1,171,738 (1%)	1,159,903 (2%)	1,148,067 (3%)
廃棄物総排出量の削減	kg/年	64,480	63,835 (1%)	63,190 (2%)	62,546 (3%)
総排水量の削減	m3/年	1,974	1,954 (1%)	1,935 (2%)	1,915 (3%)
化学物質排出量の削減	kg/年	5,160	5,108 (1%)	5,057 (2%)	5,005 (3%)
製造時の仕損削減	千円/年	4,944	4,895 (1%)	4,845 (2%)	4,796 (3%)
環境保全活動 (本社・工場周辺の清掃活動)	月当たり1回以上		月当たり1回以上	月当たり1回以上	月当たり1回以上

※二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成29年度の実排出係数 (0.438kg-CO2/kWh)を使用しております。

Ⅳ. 主要な環境経営活動計画の内容

1. 二酸化炭素排出量の削減の取組み



(1) 電気使用量の削減

- ① エアコンの温度管理の強化
- ② エアコンフィルターの定期的清掃の実施
- ③ 昼休みのエアコン間引き運転
- ④ 空調設備点検表による管理
- ⑤ 風量計による風量のチェック
- ⑥ 昼休みの消灯
- ⑦ 省エネ型空調の導入
- ⑧ コンプレッサのエア漏れチェックおよびエア漏れ予防の推進
- ⑨ トイレ、更衣室、厨房等のこまめな消灯
- ⑩ 事務所キャビスイッチによる帰社時の消灯徹底
- ⑪ 電化製品購入時の省エネ品選択
- ⑫ 太陽光発電装置の導入

(2) ガス使用量の削減

- ① 焼鈍炉の焼鈍日設定、まとめ焼鈍による時間の効率化
- ② アルミ溶解炉(ガス炉)の効率運転
- ③ 設備整備による燃費向上

2. 廃棄物排出量の削減の取組み



(1) 金属クズの削減

- ① 製造工程で排出される金属クズ(鉄・銅・アルミ等)の分別収集の実施
(有価物として売却した金属クズについては対象外とする)

(2) 紙クズの削減

- ① 全社への紙専用BOX設置による分別収集の実施
(有価物として売却した紙クズについては対象外とする)
- ② 裏紙の再利用
- ③ 両面コピーの推進
- ④ 社内資料裏紙の推進
- ⑤ 段ボールの分別収集の実施
- ⑥ コピー機の製本機能利用による複数枚コピー時の紙使用数削減
- ⑦ ストレッチフィルムの分別収集の実施

3. 総排水量の削減の取組み

(1) 節水による削減

- ① 水道メーターチェックによる水漏れの確認
- ② 水道蛇口の閉め忘れチェック
- ③ 漏水箇所の修繕
- ④ 塗装ブース等への満水警報ブザー設置



4. 化学物質排出量の削減の取組み

(1) 化学物質の削減

- ① 在庫塗料使用による塗料の廃棄量削減
- ② 洗浄液の再利用(濾過器設置)による購入量削減
- ③ 廃棄塗料の有効利用による廃棄量削減
- ④ 塗料作業者のレベルアップによる塗料使用量削減



5. 製造時の仕損削減の取組み

(1) 全社の仕損内容分析による恒久的な対策実施による失敗コスト削減

- ① 作業標準の遵守による仕損削減
- ② チェックシート等の活用による仕損削減
- ③ パトロール実施によるチェック
- ④ 仕損内容分析による再発防止の検討

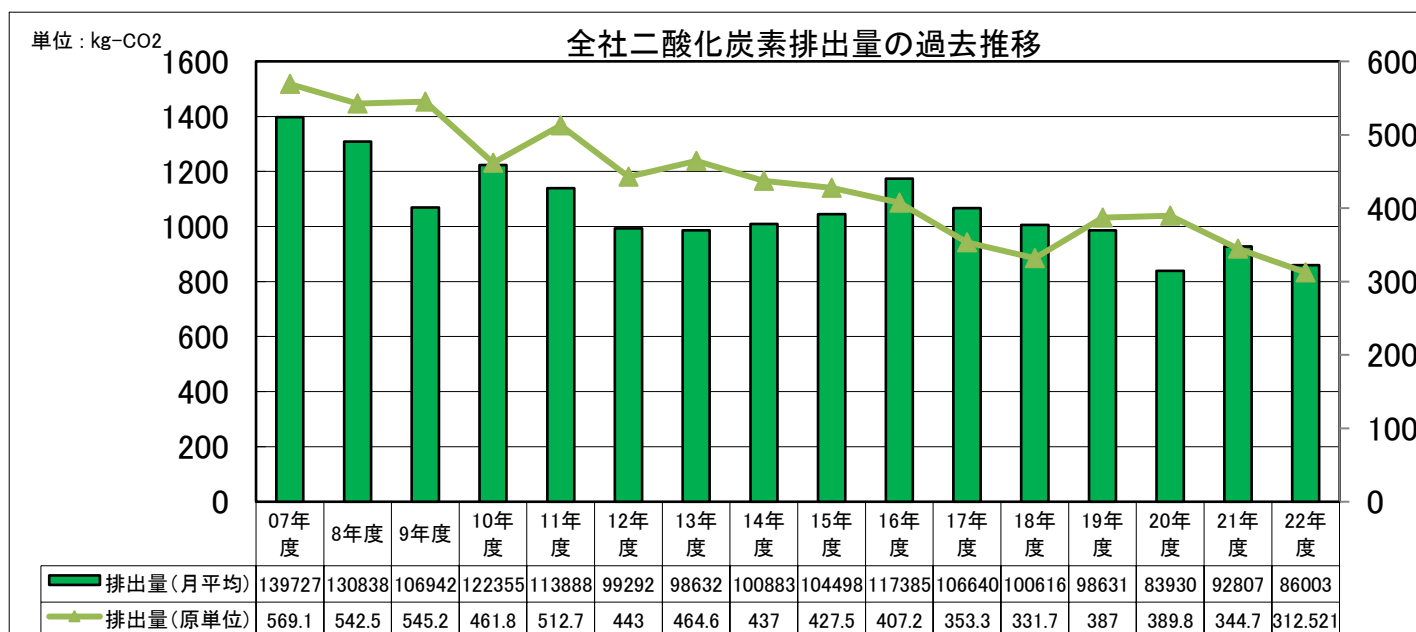


6. 環境保全活動の取組み

(1) 本社、工場外周の清掃活動



V. 環境経営目標の実績

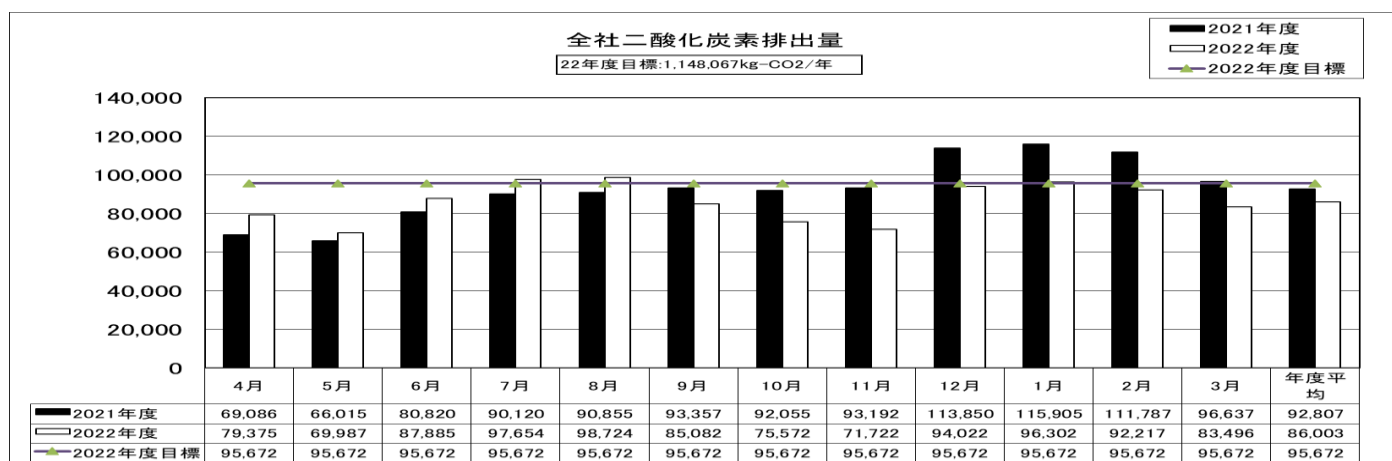


・二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成29年度の実排出係数(0.438kg-CO₂/kWh)を使用しております。

1. 二酸化炭素排出量の削減・・・目標達成

目標(1,148,067kg-CO₂/年)

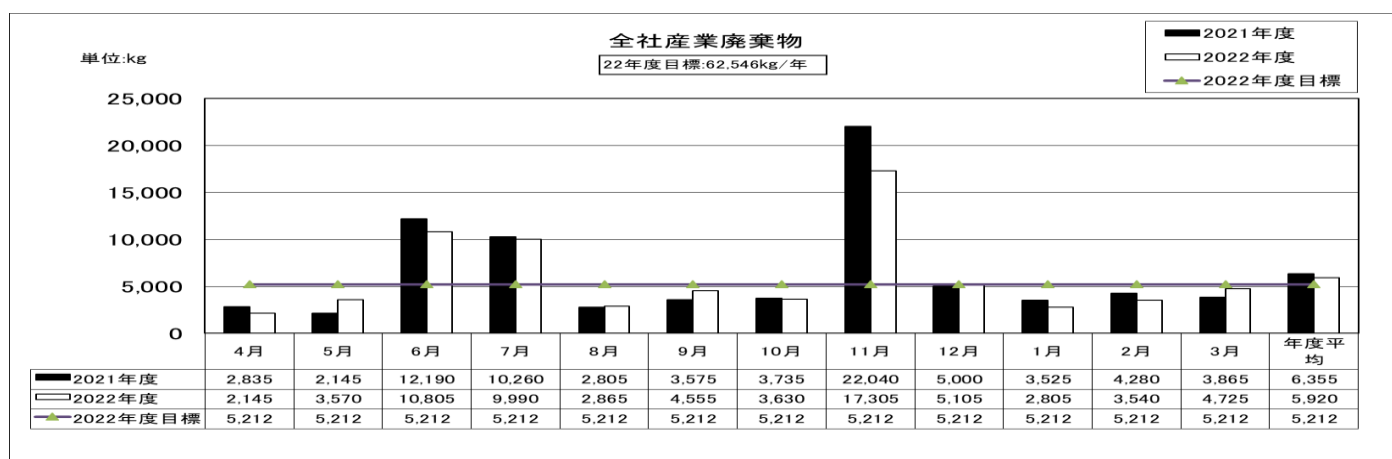
実績(1,032,038kg-CO₂/年)



2. 廃棄物総排出量の削減・・・目標未達成

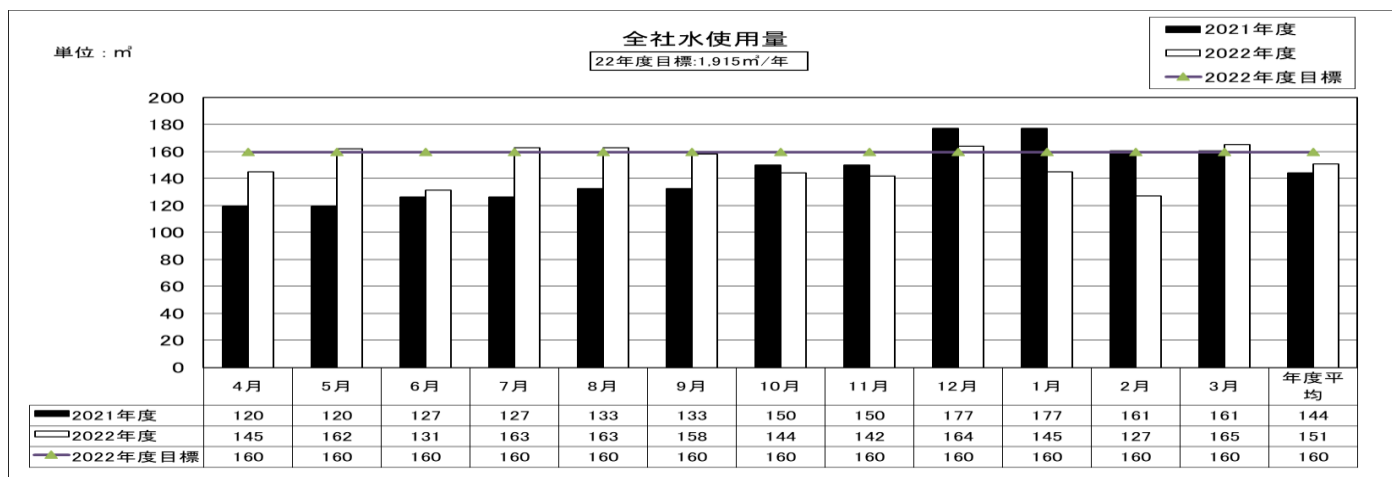
目標(62,546kg/年)

実績(71,040kg/年)



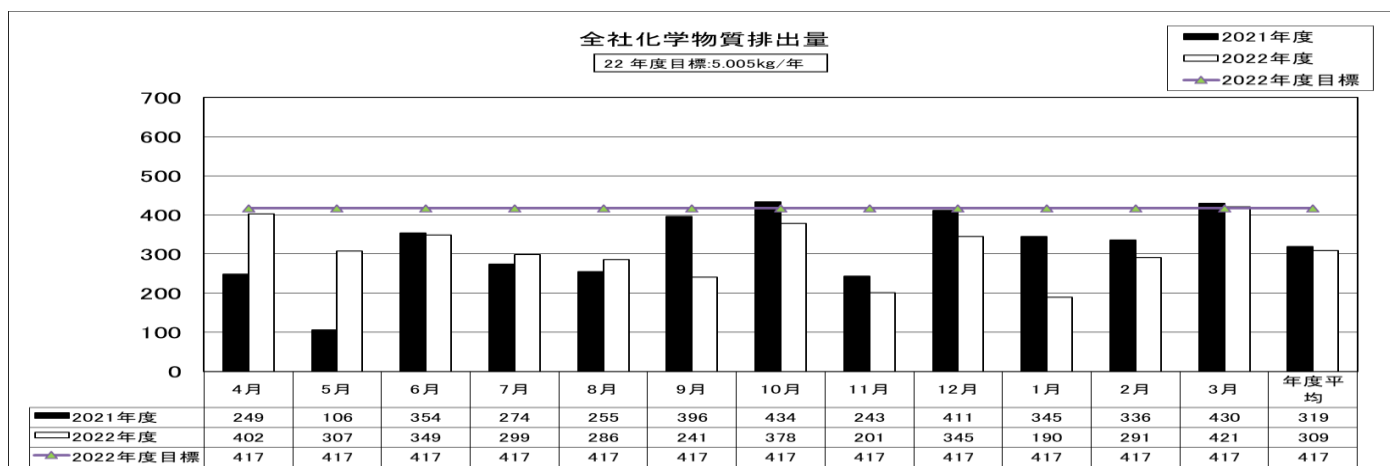
3. 総排水量の削減・・・目標達成

目標(1,915m³/年)
実績(1,809m³/年)



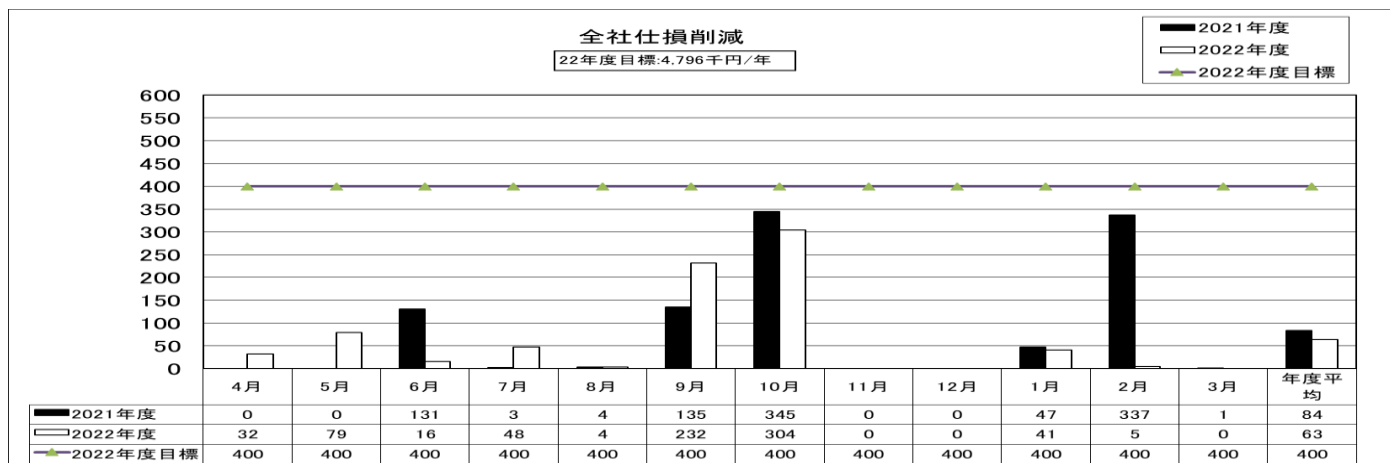
4. 化学物質排出量の削減・・・目標達成

目標(5,005kg/年)
実績(3,710kg/年)



5. 製造時の仕損削減・・・目標達成

目標(4,796千円/年)
実績(761千円/年)



VI.環境経営活動の取組結果とその評価及び次年度の取組内容

2022年度については、IV項の環境活動を着実に実施しました。
実績については次の通りです。(下表参照ください)

必須項目	負荷量	2021年度 実績	2022年度			2023年度 目標	
			目標(A)	実績(B)	(B)/(A) (%)		
年間売上高	(単位:百万円)	3,231		3,302			
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	1,113,679	1,148,067	1,032,035	89.9	982,798	
	原単位(kg-CO2/百万円)	344.7		312.5			
主要 項目	電力使用量	総量(kWh)	2,282,129	2,316,828	2,083,531	89.9	2,259,308
		原単位(kWh/百万円)	706.3		631.0		
	ガス使用量	総量(m3)	29,115	37,803	30,758	81.4	28,824
		原単位(l/百万円)	9.011		9.315		
	ガソリン使用量	総量(リットル)	2,852	3,031	3,124	103.1	2,823
		原単位(l/百万円)	0.883		0.946		
軽油使用量	総量(リットル)	2,411	2,245	2,205	98.2	2,387	
	原単位(l/百万円)	0.746		0.668			
廃棄物総排出量	総量(kg/年)	76,255	62,546	71,040	113.6	75,492	
	原単位(kg/百万円)	23.60		21.51			
総排水量	総量(m3/年)	1,732	1,915	1,809	94.5	1,715	
	原単位(m3/百万円)	0.536		0.548			
化学物質排出量 の削減	総量(kg/年)	3,833	5,005	3,710	74.1	3,795	
	原単位(kg/百万円)	1.186		1.124			
製造時の仕損削減	総量(千円/年)	1,003	4,796	761	15.9	3,136	
環境保全活動 (本社・工場周辺の清掃活動)	月当たり1回以上	月当たり1回以上	月当たり1回以上	月当たり1回以上		月当たり1回以上	

・二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の2017年度の実排出係数(0.438kg-CO2/kWh)を使用しております。
ただし、2023年度目標については、2021年度の調整後排出係数(0.385kg-CO2/kWh)を使用しております。

■今年度の取組内容及び評価、次年度取組内容

必須事項	今年度の取組内容及び評価	達成状況 (実績/目標)	次年度取組内容
二酸化炭素排出量の削減	・1-1から1-4の取組により、目標達成となった。	○ 89.9%	・1-1から1-4の取組を行い、二酸化炭素排出量を削減する。
1 1-1 電力使用量の削減	・工場、事務所のこまめな消灯の徹底を実施 ・エアコンフィルターの定期清掃の実施 ・エア漏れ予防の推進 上記の取組等により、電力使用量を削減でき、目標達成となった。	○ 89.9%	・空調の温度管理と空調フィルタの定期清掃、エア漏れの改善と予防、工場・事務所・厚生棟のこまめな消灯の徹底、省エネ設備等の更新により、電気使用量を削減する。
1-2 ガス使用量の削減	・効率的なまとめ焼頓の徹底、設備整備による燃費向上により、目標達成となった。	○ 81.4%	・効率的なまとめ焼頓の徹底と設備の整備を継続し、ガス使用量を削減する。
1-3 ガソリン使用量の削減	・低燃費車の優先使用と、エコドライブ推進を継続したが、目標未達成となった。	× 103.1%	・低燃費車の優先使用とエコドライブを継続し、ガソリン使用量を削減する。
1-4 軽油使用量の削減	・エコドライブの推進、効率的な配送により、軽油使用量が減少したため、目標達成となった。	○ 98.2%	・エコドライブと効率的な配送を継続し、軽油使用量を削減する。
2 産業廃棄物排出量の削減	・紙・缶・ペットボトル・ストレッチフィルムの分別収集は、日常的に行われたが、塗装ブース&洗浄液の交換を、目標の基準となる年度より増やしたため、目標未達成となった。	× 113.6%	・紙・缶・ペットボトル・ストレッチフィルムの分別強化、推進の継続および、次年度より発泡スチロール・ビニール製梱包材の分別を推進し、産業廃棄物を削減する。
3 排水量の削減	・毎日の水道メーターのチェックによる、漏水箇所に対する速やかな対応、機械ターニングへの蛇口閉め忘れ防止用タイマー設置により、水使用量が減少したため、目標達成となった。	○ 94.5%	・漏水管理(水道メータの確認等)の継続と漏水箇所の速やかな修繕を行い、水使用量を削減する。
4 化学物質排出量の削減	・塗料の在庫引当てによる管理、廃棄塗料の有効利用による廃棄量削減により、化学物質排出量が減少したため、目標達成となった。	○ 74.1%	・在庫塗料使用による塗料の廃棄量削減や洗浄液の再利用を行い、化学物質を削減する。
5 製造時の仕損の削減	・社外クレームを発生させないため、チェックシート等の活用状況のパトロール、および仕損内容分析による再発防止の検討を行い、目標達成となった。	○ 15.9%	・帳票類の有効活用とパトロール実施、仕損内容分析による再発防止の検討を継続し、製造時の仕損を削減する。

Ⅶ. 環境活動の取組状況

■太陽光発電設備の導入



2023年1月 CoCoLoプロジェクト【SDGs達成に貢献する事業】に賛同致しました。

CoCoLoプロジェクトとは、自家消費型太陽光発電などのCO2削減量を環境価値とし、国が認証する制度「Jクレジット」として得られた収益を、自治体等を通して子育て支援や植林事業等に活用し、地域の社会的課題解決支援を図るプロジェクトです。

太陽光発電を設置し、社内だけではなく、社会に貢献できることに意義を感じております。

Ⅶ. 環境活動の取組状況

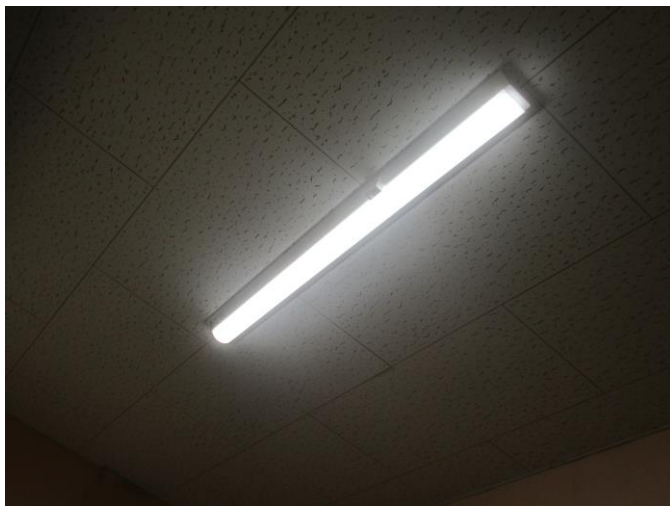
■工場エアコンの買い替え(省エネタイプ)



■営業車の買い替え(ハイブリッド車)



■照明の更新(人感センサーライト化) 厚生棟



■廃棄塗料の有効利用(ニス貯蔵曹再塗装)



■環境保全活動(本社・工場周辺の清掃活動)



Ⅷ. 環境関連法規等の遵守状況

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。

・廃棄物処理法 ・騒音規制法 ・振動規制法 ・消防法 ・PRTR法 ・フロン排出抑制法
それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
尚、関係当局よりの違反の指摘、利益関係者からの訴訟等もありませんでした。

Ⅸ. 代表者による全体の評価と見直し

2022年度は、原油・原材料の高騰、急激な円安の影響などにより、経済社会や人々の生活様式が大きく変化する年となりました。売上高は過去3番目に多かったのですが、損益は材料価格高騰の影響をもろに受けて、大きな赤字となりました。

環境経営活動の必須項目については、産業廃棄物排出量の削減が目標未達となりました。原因としては、2019年に乾式塗装ブースを環境を配慮した湿式塗装ブースに変更したことで、塗装ブースの排水が増加したことによるものです。産業廃棄物削減対策として、今年度より発泡スチロールの分別およびビニール製梱包材の分別を実施することにしました。

その他の項目においては目標達成となり、改善活動の定着化がみられたように思います。

全体の評価としては、環境経営システムは有効に機能しており、環境経営目標達成に向けた取組みが、適切に実施されていると判断しました。

2023年度の環境経営目標値は、2021年度の総量実績値より1%削減を目指すこととします。取組内容を都度見直し、全ての管理項目で目標を達成出来るように、社員一丸となって更なる継続的な改善を図り、今後もエコアクション21を経営の最重要課題として取組を強化してまいります。

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊 竹 浩 和